

長期の休業日（その前後）は、不登校児童生徒の状況の改善につながりやすい時期です。その一方で、休業日後は、新たな不登校児童生徒が発生しやすい時期でもあります。以下に示す指導資料を参考にして、節目となる時期を生かした不登校対策について職員会等で全職員で共通理解をし、指導の充実を図っていくことが大切です。

< 指導資料 1 >

連休（4月～5月）前後の不登校対策について

1 特に配慮を要する児童生徒

4月に欠席が目立ったり、学級の新しい仲間のなかで孤立がちだったりした児童生徒  
 4月から全欠で引きこもりがちな児童生徒  
 昨年度、連休明けに欠席が続いた児童生徒  
 昨年度、不登校傾向であったが、年度が変わって登校するようになった児童生徒

2 連休前の指導のポイント

【指導のキーワード】 4月の姿の価値付け 連休中の生活リズム 多様な人とかかわり 休み明けの楽しみ

児童生徒への働きかけ  
 新しい学級の中での仲間関係のよさを認めたり、配慮を要する児童生徒の努力を価値付ける。  
 新しい学級の中での人間関係に不安を感じていることはないか話を聞く。  
 連休中は、課題を明確にもち、規則正しい生活ができるようにする。  
 連休後の学校の行事や活動について紹介したり、仲間と計画を立てさせたりして、連休後の学校生活に楽しみをもつことができるようにする。

家庭への働きかけ  
 4月の児童生徒の頑張ってきた姿を伝える。  
 連休中にゆっくりと心身を休め、学校生活に向けてのエネルギーを蓄えることができる過ごし方をするように働きかける。  
 引きこもりがちな児童生徒の家庭に対しては、連休中に行われる地域のイベントや博物館等の行事を紹介し、多様な人とかかわることができる機会を生かすように働きかける。  
 特に心配な児童生徒に対しては、担任や相談員から連休中に電話を入れる等して、学校生活への不安が大きくなるように支援する。

関係機関等との連携  
 引きこもりがちな児童生徒が、連休中に行われる行事等に参加する予定がある場合は、主催する関係機関等に連絡をして協力を依頼する。

3 連休後の指導のポイント

【指導のキーワード】 児童生徒の表情・行動の見届けと声かけ 早期対応 粘り強いかわり

児童生徒の様子の見届けと働きかけ  
 連休明けに登校してくる児童生徒を校門や教室で迎え、表情やしぐさ、行動を見届けるとともに、進んで声をかける。  
 連休明けに欠席した児童生徒に対して、欠席の要因を探り、状況に応じて担任、相談員等が家庭訪問をしたり、意図的に仲間からの働きかけ（電話をかける、手紙を書く）が生まれるようにしたりして、素早く状況の改善を図る。  
 5～7月の行事や活動の見通しをもたせ、仲間との生活に楽しみをもたせる。

家庭への働きかけ  
 連休明けに不登校傾向を示した児童生徒の家庭に対しては、家族の思いを十分に聞き、粘り強くかわり続ける。

## 夏季休業前後・夏季休業中の不登校対策について

### 1 特に配慮を要する児童生徒

1 学期に欠席が目立った児童生徒（一時期不登校傾向を示したが、改善された児童生徒）  
4月から全欠で引きこもりがちな児童生徒  
昨年度、夏季休業明けに欠席が続いた児童生徒  
昨年度、不登校傾向であったが、年度が変わって4月から登校するようになった児童生徒

### 2 夏季休業前の指導のポイント

#### 【指導のキーワード】

1学期の姿の価値付け 終業式を生かした働きかけ 夏季休業中・2学期の楽しみ

#### 終業式を生かした児童生徒への働きかけ

1学期に取り組んだ様々な活動を振り返るなかで、一人一人の努力を位置付ける。  
不登校児童生徒への終業式を生かした積極的な働きかけを行う。

[ 1、2週間前 ]

・本人の思いを聞くとともに、いろいろな形で終業式の迎え方を示し、本人が選択・決定できるように働きかける。

（ ・体育館で他の児童生徒といっしょに ・教室で学級活動に参加して  
・放課後の教室で ・校長室で ・相談室で ・校門で ・家庭訪問で ）

[ 前日 ]

・「1学期の節目となる日に登校して、これからの生活の充実につなげて欲しい」という教師や仲間の気持ちを電話や手紙で伝える。

[ 当日 ]

・状況に応じて、校門で出迎えたり、迎えに行ったりする。  
・登校できたら、登校できたことに自信もてる価値付けをする。  
・登校できなくても「登校の準備をした」「玄関まで行けた」といった、その子の努力した事実をとらえ、その姿を価値付ける。登校できなかったことに自信をなくしている場合は、話をよく聞き、本人の苦しさを共感的に受け止める。また、夏季休業中の過ごし方をいっしょに考え、具体的な目標をもたせる。

### 3 夏季休業中の指導のポイント

#### 【指導のキーワード】

生活リズム 豊かな体験 信頼関係を築く教育相談 教育支援センター等との連携

#### すべての児童生徒への働きかけ

人や自然、社会とかかわる豊かな体験活動に取り組むことができるようにする。  
家族、地域の一員として積極的に活動（ラジオ体操、奉仕活動への参加、家での仕事の継続）できるようにする。  
一研究、一作品等、自分の得意なことに取り組み、やりきった成就感、充実感をもつことができるようにする。

#### 不登校傾向の児童生徒への働きかけ

夏季休業中の過ごし方の計画を立て、規則正しい生活を送ることができるようにする。  
地域や関係機関等が主催する様々な体験活動を紹介し、活動に積極的に参加するように働

きかける。また、担任や教育相談担当者は、児童生徒の活動の様子を見に行き、本人に声をかけ認め励ます。

児童生徒が興味をもっている話をしたり、いっしょに遊んだりする機会をもつ。

1 学期の学習で不十分なところを個別に指導し、学習に対する不安を解消する。

2 学期の諸行事（運動会 体育祭、文化祭等）に対する児童生徒の願いや不安、学級の仲間関係にかかわる心配等、児童生徒とゆっくりと話し合う場をもつ。不安を軽減するために、学校ができることを示すとともに、自分自身が努力できることを考えさせる。

#### 家庭への働きかけ

多様な体験活動のよさを伝え、様々な活動に参加できるように支援をお願いする。

家庭訪問を行い、児童生徒の日頃の家庭での様子を聞いたり、児童生徒に対する願い、学校への要望等をじっくりと聞く。（担任が訪問が難しい場合には、他の職員や相談員、地域の方の協力を得るなど工夫をする。）

状況に応じて教育支援センター、専門機関・相談機関を紹介し、保護者の心の安定を図ることができるようにする。

#### 職員間、関係機関等との連携

1 学期の状況を踏まえ、スクールカウンセラー等の助言を受け、不登校児童生徒に対する支援計画を見直す。

- ・夏季休業中、2 学期の不登校児童生徒の指導・援助の在り方を明確にし、職員それぞれが連携して役割を果たしていくことができるようにする。
- ・状況に応じて、教育支援センター、専門機関等を訪れ、児童生徒の状況について相談をする。

## 4 夏季休業後の指導のポイント

### 【指導のキーワード】

児童生徒の表情・行動の見届けと声がけ 早期対応 運動会等集団活動への不安解消

#### 児童生徒の様子の見届けと働きかけ

夏季休業明けに登校してくる児童生徒を校門や教室で迎え、表情やしぐさ、行動を見届けるとともに、進んで声をかける。

夏季休業中の児童生徒のよさ（体験活動に意欲的に参加した姿、ラジオ体操に参加した姿、家族の一員として努力した姿等）を積極的に認め、自信をもたせる。

一研究、一作品が十分にできていないことへの不安はないか、運動会（体育祭）の取組への不安はないか、状況に応じて児童生徒の思いを聞き、安心できる助言をする。

夏季休業明けに欠席した児童生徒に対して、欠席の要因を探り、状況に応じて担任、相談員等が家庭訪問をしたり、意図的に仲間からの働きかけ（電話をかける、手紙を書く）が生まれるようにしたりして、素早く状況の改善を図る。

運動会（体育祭）等の仲間との取組に対する目標をもたせ、練習の中で充実感を味わうことができるようにする。また、仲間と目標に向かって努力するなかで、互いに認め励まし合っていくように働きかける。

#### 家庭への働きかけ

夏季休業明けに不登校傾向を示した児童生徒の家庭に対しては、家族の思いを十分に聞き、粘り強くかわり続ける。

運動会（体育祭）等 2 学期の取組のねらいや児童生徒の様子、これからの予定を示し、家庭内でも児童生徒を積極的に認め励ましていくことができるように働きかける。

#### 職員間、関係機関等との連携

運動会（体育祭）に向けての取組等においては、配慮を要する児童生徒の様子を多くの職員が分担して見届け、ちょっとした変化（よさ）を見逃すことがないようにし、とらえた情報を素早く職員間で共有できるようにする。

## 冬季休業前後の不登校対策について

### 1 特に配慮を要する児童生徒

2 学期に欠席が目立った児童生徒（一時期不登校傾向を示したが、改善をした児童生徒）  
2 学期ほとんど登校できず引きこもりがちな児童生徒  
進学、進級に不安を抱えている児童生徒

### 2 冬季休業前後、休業中の指導のポイント

【指導のキーワード】  
終業式・始業式を生かした指導 家族との温かいかわり・家族の一員としての仕事  
新しい年への目標 進学・進級に対する不安の解消

#### 児童生徒への働きかけ

1 年の節目となる 2 学期の終業式、3 学期の始業式の機会を生かした働きかけを行う。

\* 指導資料 2 「夏季休業前後・夏季休業中の不登校対策について」参照

冬季休業中の過ごし方をいっしょに考え、計画を立てる。

- ・年末に家族の一員として仕事に進んで取り組むことができるようにする。
- ・寒い中でも、外に出て体力づくりに励むことができるようにする。
- ・年始に新たな気持ちで 1 年の目標を立てることができるようにする。

年賀状等を活用し、温かいメッセージを届ける。

3 学期の始業式前には、新学期を迎えるにあたって心配していることはないか電話や家庭訪問を通して児童生徒の思いを聞く。（冬季休業中の課題について、3 学期のスキー研修等の諸行事について、書き初め用具等新学期の持ち物について、新学期のグループ編成について等）

#### 進学を控えた小 6 ・中 3 の児童生徒への働きかけ

進学にかかわる 3 学期の日程・内容（中学校の半日入学の内容や高等学校の入試日程等）を伝える。

冬季休業を生かした進学先にかかわる情報収集の仕方を伝え、情報収集をすることで進学に対する見通しをもち、不安の軽減につなげる。

- ・学校のホームページ、パンフレットの活用、親しい先輩の話を書く、実際に学校に行き雰囲気を感じる等、多様な方法を示し、本人がやりたいと思ったことが実現するように支援する。
- ・高等学校、専門学校等で獲得できる資格や、高等学校等の卒業後の進路状況について把握できるように支援する。

#### 家庭への働きかけ

家族とのふれあいが多くもてる場を設定するよう働きかける。

進学にかかわる保護者の不安の軽減を図る。

- ・進学後に不登校状況が改善された事例の紹介をする。
- ・進学にかかわって親子で冬季休業中に行うとよいことを具体的に提示する。

冬季休業中の児童生徒の様子や学校への要望等を聞く。

家族の一員として仕事を行った姿や体力づくりに励んだ姿をとらえ価値付ける。

#### 職員間、小・中・高、関係機関等との連携

2 学期の状況をふまえ、スクールカウンセラー等の助言を受け、不登校児童生徒に対する支援計画を見直す。

進路指導主事等と連携を図り、不登校児童生徒の進学にかかわる情報を整理する。

- ・中学校、高等学校等の進学に向けての日程、1 日入学等の内容を把握する。
  - ・不登校傾向の児童生徒のこれまでの様子や指導の歩み、本人・家庭の願い、進学希望先の状況をふまえ、これからの進路指導の方向について関係職員と検討する。
- 不登校傾向の生徒の受け入れ状況、指導体制等について高等学校や専門学校等を訪問し情報を収集する。

## 学年末・学年始めの不登校対策について

### 1 特に配慮を要する児童生徒

3 学期に欠席が目立った児童生徒（一時期不登校傾向を示したが、改善をした児童生徒）  
1 年間ほとんど登校できず引きこもりがちな児童生徒  
進学、進級に不安を抱えている児童生徒

### 2 学年末休業、学年始め休業前後、休業中の指導のポイント

#### 【指導のキーワード】

修了式・卒業式、始業式・入学式を生かした指導  
校内・学校間の情報の引き継ぎ・共有

進学・進級に対する不安の解消  
新年度の体制づくり

#### 児童生徒への働きかけ

学校生活の節目となる、修了式、卒業式、次年度の始業式、入学式の機会を生かした働きかけを行う。

\* 指導資料 2 「夏季休業前後・夏季休業中の不登校対策について」参照

- ・これまでの自分の姿を見つめさせ、迷い苦しみながらも努力してきた点を価値付け、修了式や卒業式の場において胸を張ることができることを本人に自覚させる。
- ・これまで自分を支えてくれた家族や周りの人々の思いに目を向けさせる。そして、修了式や卒業式に参加し感謝の気持ちを伝えようとする意欲を高める働きかけをする。
- ・新年度に入ったら、かかわりのある職員（旧担任、教育相談主任等）が電話や家庭訪問を通して、新学期を迎える不安を軽減する働きかけを行う。

#### 引きこもり傾向の児童生徒への働きかけ

学年末に行われる諸行事（卒業生を送る会、半日入学、体験入学、教育支援センターで修了式、子ども会行事等）への参加を促す。  
学年末、学年始め休業日に家庭訪問を行い、新年度に向けての思いを聞き、進級・進学  
の機会を生かしていくことができるように働きかける。

#### 進学を控えた小6・中3への児童生徒への働きかけ

小6...進学先の中学校の下見を行うように働きかける。（教師も一緒に行う。）

...中学生から学校の様子や部活動等の様子について楽しみが膨らむ話を聞くことができるようにする。

中3...進学先の高等学校等に、実際に登校する時間に、実際の方法（バス等）を使って登校する体験を行い、生活のリズムを実感できるようにする。

進学に必要な物が十分に準備されているか確かめる。

#### 家庭への働きかけ

家庭訪問や電話を通して、進級・進学にかかわる保護者の願いや不安を聞き、対応する。  
年度が変わるなかで学校として配慮していくことを説明し、担任、相談員、クラスが変わることに対する不安が軽減されるようにする。

#### 職員間、小・中・高、関係機関等との連携

担任、教育相談主任等が協力して、不登校傾向の児童生徒の状況、家庭環境、指導の経過を整理し、スクールカウンセラー等の助言を受け、今年度の指導・援助の成果と課題を明らかにする。

不登校傾向の児童生徒にかかわる情報を校内、小中間、中高間で引き継ぐ場をもつ。

引き継いだ情報を基に、不登校傾向の児童生徒に対する指導の構えを明確にする。

・引き継いだ情報について管理職に報告するとともに、校内での共通理解を図る。

・情報を基に状況に応じた支援の構えを明確にする。

（組織的な支援体制・役割分担の明確化、対人関係への配慮、学習面での配慮、諸行事や部活動における配慮、家庭環境への配慮等）

教育支援センター等の関係機関と連絡を取り合い、4月当初に発生しやすい問題に素早く対応できる体制をつくる。